

小林 洋一

全国滋賀県人会連合会理事
京都滋賀県人会副会長

大河内 徹心

甲賀市長

岩永 裕貴

対談日:令和6年1月17日
場所:甲賀市役所

「木隠れて茶摘みも聞くやホトトギス」(元禄7(1694)年、芭蕉、51歳)

総合計画に掲げる三つのテーマと
の事業推進について

小林会長:ご公務多忙の折、このたびは、
全国滋賀県人会連合会のために貴重な時
間をとって頂き、有難うございます。
私は三年前に東京滋賀県人会会長を
拝命し、就任して先ずは滋賀県の魅力
を再発見しなければいけないと思っ
て、最初にお伺いしたのが甲賀市の岩
永市長でした。今回、甲賀市には、三
年半ぶりとなります。本日は宜しくお
願い致します。

早速ですが、令和5年度の方針演説
予算編成を拝見いたしました。三つの
テーマを重点的に掲げられておられま
すが、「いつもの暮らしに幸せを感じ
られる」まちづくりのお話しをお聞き
したいと思います。

岩永市長:市長に就任して7年が過ぎ、今
年の10月が最終任期ですが、就任当初
から「地域経済」「子育て・教育」「福
祉・介護」の三つのテーマを、総合計
画の中心に据えています。まず、甲賀
市として最も重要な課題は「子育て・
教育」で、これは一丁目一番地とし
て捉えています。そして、「地域経済」
については、本市は生産額が1兆円を
超える県内一のものづくりのまちです
ので、これをさらに伸ばして行かなけ
ればならないと考えています。

甲賀市における今後の「地域経済」
対策について

小林会長:本日は市内の三箇所のインター
チェンジの一つ、信楽インターチェン

ジを利用し甲賀市に参りました。交通
の要所としての今後の計画、住民の増
加を図る為の工業団地の誘致等につい
てお聞きしたいと思います。

岩永市長:市内の12の工業団地には、約
170社の事業所があり、現在空き区
画が無い状態ですが、今後はさらに産
業用地を拡大し、新名神高速道路を中
心とした経済圏を發展させ、雇用の確
保や地域経済の活性化に取り組みなけ
ればならないと考えています。

小林会長:地球温暖化の影響による琵琶湖
の水位低下が問題となっております。お
隣の湖南市では、工業団地より水の消
費が少ない、物流倉庫が1号線沿いに
増えてきていますね。

岩永市長:滋賀県内の市町では日本一の淡
水湖である琵琶湖がありながら、農業
用水や工業用水等で苦勞されていると
ころも多いですが、甲賀は琵琶湖の水
源林を抱え、県最大の野洲川の上流域
でもあり、水不足はあまり心配してい
ません。

工場誘致については、草津市や大津市
とではなく、三重県の伊賀市、鈴鹿市、
名張市、四日市市などの内陸の工業工
リアと競争する環境にあり、いかに成
長性のある企業を誘致して、地域経済
との提携を図っていくかが課題です。

小林会長:甲賀忍者と伊賀忍者、近江牛と
伊賀牛。甲賀の地域経済は三重、中京
圏との競争ですね。
今日、市役所に来てみたら、各課のプ
レートがポルトガル語で表示されてい
ました。市長が目指されている外国人

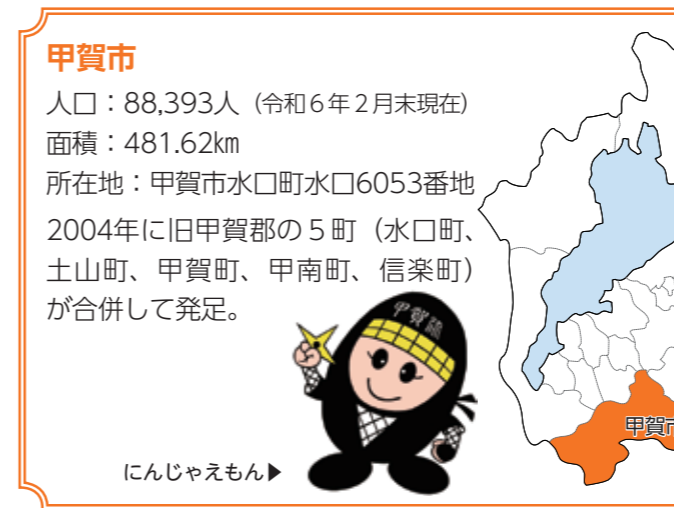
との共生による人口増加策についても
お聞きしたいと思います。

岩永市長:本市の人口は、住民基本台帳
ベースで平成17年から平成20年ごろに
は約9万人でしたが、その後、減少に
転じており、令和5年10月現在では
8万8千人となっています。その内、
外国人は約4,500人、市民全体の5
パーセントを超えており、外国人の増
加が人口減少に一定の歯止めをかけて
いる状況ですので、まちづくりにおい
ても多文化共生を重要視しています。

「子育て・教育」の主な施策について

小林会長:まず、最初に、「子育て・教育」

甲賀市
人口: 88,393人 (令和6年2月末現在)
面積: 481.62km
所在地: 甲賀市水口町水口6053番地
2004年に旧甲賀郡の5町(水口町、
土山町、甲賀町、甲南町、信楽町)
が合併して発足。



にんじゃえもん▶

な成長をまち全体で応援することを目
的に、満1歳まで取り組んでいます。

福祉・介護

小林会長:滋賀県の長寿の原因、秘訣はな
んでしょうか。

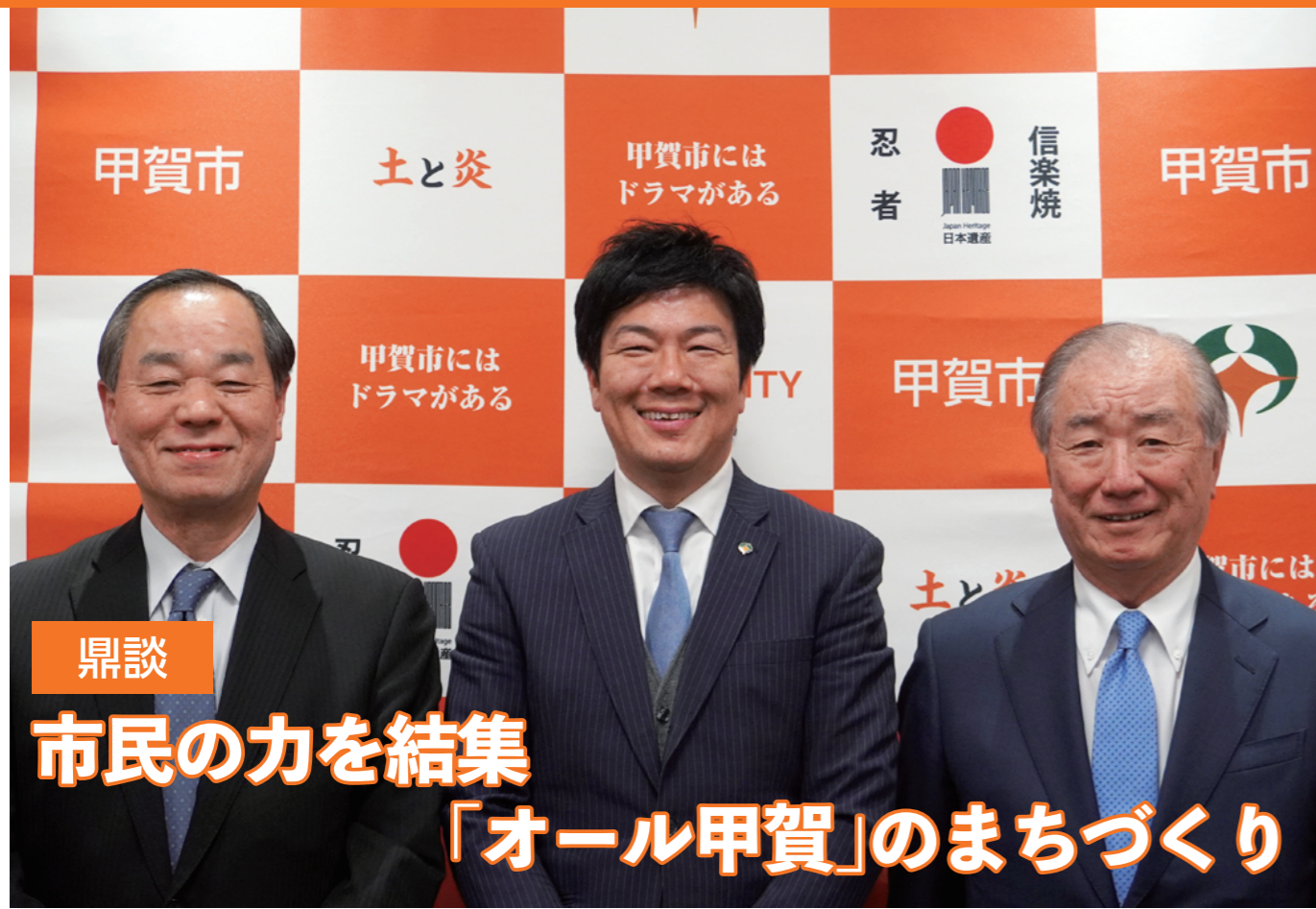
岩永市長:滋賀県は長寿県で、平成元年で
は100歳以上の方が16人だったの
が、現在は800人に増えています。甲
賀市では70人程おられます。

市では、健康推進員による食生活改善
を始めとした様々な健康づくりに取り
組んでいますし、県の方針で、減塩活
動が推進されていますので、その成果
だろうかとも思います。滋賀県はタバ
コを吸う率が全国的にみて少ないとい
うこともあると思います。また、ボラ
ンティア活動の参加率が全国的にも上
位にいて、外に出かける機会が多いこ
と、その3つの事が長寿の秘訣だと思
います。

小林会長:東京で話をすると、滋賀県は鮎
ずしを食べているから長生きなんだと
いわれます。

滋賀県は自然災害が少なく温暖で食べ
物に困らない環境で、地域の方々のコ
ミュニティーが出来ている。長野県も
長寿の県で、中山間地であり、体を動
かす環境であるところが共通していま
すね。

岩永市長:ただし、長寿と言っても、長寿
と健康は別で、滋賀県は平均寿命と健
康寿命の乖離が大きく、いかに健康で
長生きしていただくかが大きなテーマ
だと思っていますので、特に福祉介護



鼎談

市民の力を結集 「オール甲賀」のまちづくり

岩永市長:甲賀市において、最も重要な課
題として、「子育て・教育」を1丁目
1番地として捉えています。私が就任
した当初は、県内で子育て支援が遅れ
ていた地域でもありましたので大号令
をかけて、推進してまいりました。妊
娠期から子育て期までの切れ目のない
支援である「こうか版ネウボラ」を推
進しております。母子手帳の交付時か
ら、地域の担当保健師が、妊婦の方と
顔の見える関係づくりに努め、出産後
も相談・訪問・健診を入口に、子育て
をされている方に寄り添った支援を行
っており、そのひとつとして、「こう
かおむつ便」という事業を実施してい
ます。子育てしやすい環境づくりに向
けて、子育て世帯の経済的負担の軽減
を図るとともに、安心して子どもを産
み育て、次世代を担う子どもの健やか

甲賀市 乳児見守り訪問
こうか◆おむつ便





くすり学習館



小狸酒



土山の茶畑



信楽焼

に力を入れていきます。健康年齢の延伸すなわち、健康で豊かな暮らしをしていただくために、市では健康推進員を中心に、いろんな取組を行っています。これは7年前、市長就任時から取り組んでいます。

「地域経済」の主な施策について

地場産業・信楽焼

小林会長…次に、「地域経済」についてお聞きします。甲賀市は地場産業として、まず、信楽焼、お茶、地酒、薬とあります。まずは甲賀といえば、信楽焼が有名すぎるほど有名ですが。

岩永市長…信楽焼といえば、NHK朝の連続テレビ小説「スカーレット」で全国的に広く知られるところとなりましたが、「信楽焼」はアート、芸術の世界です。歴史のある焼き物のまちであり、新しい作家さんがブランドを守って、個性にこだわってきたまち、文化と伝統のまち、そしてアフターコロナ後の「心の豊かさ」や、多様な生き方など、子どもたちの個性を引き出し活かせる育ちの場もあり、いろんな表情があるのが信楽です。また、お茶との組み合わせによって、焼き物の中にある価値をさらに高め、甲賀市のまちの中心に据えていきたいと思っています。若い作家さんの移住も多く、海外からの留学生で信楽焼を習う方も増えてきています。こうした方々がもたらす国際的な感覚や新しい生き方、価値観を大切にしていきたいと思っています。

小林会長…京都では、キリンビールの撤退後、ビールで乾杯する条例に異論が出て、日本酒の伏見の酒での乾杯に変わったと聞いています。

地場産業・薬業

小林会長…甲賀の薬業産業についてお聞かせください。

岩永市長…薬業については、甲賀では医薬品等の化学工業として約4千億円の出荷額があります。自然豊かで温暖な地である甲賀は、古くから忍者の関係で

小林会長…焼き物にも有田、瀬戸等いろいろな焼き物がありますが、「信楽焼」についてはどうですか。

岩永市長…かつて信楽焼はタヌキ、火鉢、植木鉢などが主力でしたが、1970年の大阪万博で、岡本太郎さんの「太陽の塔」に信楽焼が使われたことが、アートへと大きく変化する起点になりました。「太陽の塔」には「未来・現在・過去」が3つの顔で表現されており、塔の裏側にある顔「黒い太陽」に信楽焼が使われているんです。

1990年花の万博（愛知県）では「花の塔（セラミック・ファンタジー）」を制作し、工業製品の産地でありながらアート性も世界に主張してきました。これから訪れる2025年大阪・関西万博についても、焼物の産地のレガシーとして「信楽焼」の存在感を世界に発信できるようなプロジェクトを進めております。



地場産業・ゴルフ場

小林会長…市長も私もゴルフのこととなると話は尽きませんが？甲賀市域にはゴルフ場が多いのでは。

岩永市長…ゴルフ場は全国3位の多さで、



薬草や化学の知識があり、地域住民が薬への理解があつたことや、自然由来の物を使いこなす技術に長けていたこともあり、全国6位である滋賀県の医薬品の生産額の中でも甲賀が高い割合を占めています。

また、ドイツのバイエル社の拠点もあり、工場内では英語が共通語になっています。

富山の薬売りの会社のような売薬の会社もあり、甲賀市の基幹産業である大きな産業です。

小林会長…このように、甲賀は地場産業が盛んで発展してきましたが、これらの産業を盛り立てるのに、県人也会協力していきたいと思っています。

岩永市長…どうぞよろしく願います。

地場産業・お茶

小林会長…私は毎朝、お茶は必ず仏壇に供えて、自分もいただいております。お茶は心のゆとりを楽しむ文化だと思いますが、甲賀のお茶にはどのような特徴があるのですか。

岩永市長…滋賀県は日本茶の発祥の地であり、最澄が中国より持ち帰って植えたのが始まりと言われていますが、滋賀県のお茶の96%が甲賀市で生産されています。甲賀は、朝夕の寒暖差が大きく、お茶の栽培に適したエリアで、非常に品質の高いお茶が取れるところです。急須でお茶を味わう文化が薄れてきましたが、ゆつくりとお茶を楽しむ文化を広め、味と香りに特徴のある良質なお茶を守っていききたいと思います。また、お茶を使ったスイーツの開発もしていきたいと思っています。東京県人会にも、歌舞伎座での宣伝などに協力いただきたいのですが、今後も引き続き連携して、甲賀のお茶のPRに頑張っていきたいと思います。

平成30年度から進めてきた甲賀の茶ブランド化事業において、「土山一晩ほうじ」を完成しました。滋賀県茶業会議所を中心に、茶生産者・茶商が産地全体で協力し合い出来上がった商品です。甲賀には他に「朝宮茶」があり、こちらもブランド化の検討を始めたところです。昨年の4月28日には、お茶の認知度向上に向け、「オーガニックビレッジ」宣言をいたしました。オーガニック茶の生産を拡大し、



信楽高原鐵道・信楽駅



忍術村



甲賀流リアル忍者館



水口城跡

として購入される方も増えてきています。トーナメントを誘致したいと考えており、甲賀市のゴルフ場でロングランコンペを開催し、年間で延べ6千人の参加者に来ていただきました。最後の決勝トーナメントでは、今年は女子プロゴルフツアーとお笑い芸人の遠藤さんも来て、盛り上げていただきました。また、ユーチューバーの方々とも連携してゴルフ人口の拡大を図っていききたいと思っています。

外国人を含む観光誘客について

小林会長…住民の増加と共に、特に観光資源を最大活用することにより、イベントなどを定期的に開催して外国人を含む多くの訪問者を誘客することについてお聞かせください。

岩永市長…多くの観光資源を有する本市には、国外にも人気の高いコンテンツである忍者があり、2025大阪関西万博も見据え、忍者を活用したインバウンド誘客の準備を進めているところです。観光イベントにおき



ましても、「忍夜討」など、インバウンドにも対応した新たな取組も進めています。また、イベントの実施にあたっては、何よりも観光関連団体や事業者の方々と民間の皆様のご協力がなければ定期開催は困難でありますので、今後におきましても、官民がしっかりと連携し、観光資源を有効活用しながら、地域を盛り上げて観光の産業化を図っていききたいと考えています。

環境未来都市創造事業・エネルギー対策

小林会長…甲賀市では、令和4年度に「環境未来都市宣言」を行われましたが、ねらいを教えてください。

岩永市長…令和4年9月30日に市議会と共同で、2050年までに温室効果ガス排出量の実質ゼロを目指し、「環境未来都市宣言」を行いました。また、令和4年度には、全国植樹祭が甲賀市を主会場として開催されました。今後は、市民の皆さんを巻き込んだムーブメントとして環境政策やカーボンニュートラルに取り組みしていきたいと考えています。

小林会長…カーボンニュートラルとして、水力、風力、太陽光の取組は、

岩永市長…水力、風力、とありますが、主な取組としては、屋根を中心とした太陽光です。それと、山での植樹ですね。木は植樹されて50年を経過すると二酸化炭素の吸収量が減少します。木を切って植え直す作業をどんどんやって、森林を循環させれば、若い木が二酸化

な環境政策に取り組んでいきたいと考えております。

大河内理事

…旭川市の東川町も木材を活用した、木のおもちゃを渡して、子どもたちの遊びに活用したり、子どもたちに木の机を制作して、卒業後は家に持ち帰って使うという活動をしていると報じられていました。

岩永市長

…甲賀市でも東京四谷の東京おもちゃ美術館と提携して「ウッドスタート宣言」をしていまして、子どもが生まれたら、誕生日の品として甲賀市産の木のおもちゃや、木育の本などをお渡しする活動をしています。また、市内にも木のおもちゃを作っている工房があります。

忍者

小林会長…視点を変えて、甲賀と言えば「甲賀忍者」も欠かせません。

岩永市長…忍者は世界的に注目を集めるコンテンツで、グローバル日本語ワード、

アニメの中でも一番検索されているのが忍者で、世界中のほとんどの国の方が忍者を知っています。今や日本を代表するキーワードコンテンツとして、忍者とくれば甲賀、伊賀というように広く知られています。甲賀市と伊賀市は忍者の聖地であり、甲賀は飛んだり跳ねたりを見せるのだけでは無く、忍者の実像を追求し、それを見せることをテーマにしています。古文書なども残っています。歴史家の磯田道史さんが「甲賀流忍者調査団」の団長になって、定期的に調査していただき、新しい発

見もあって、メディアにも紹介していただいております。

リアルな忍者の姿をお見せすることですが、例えば、家康の甲賀伊賀越えの伝説について、忍者との関わりに思いを馳せながら、家康の通った足跡を歩くツアーや、古文書の伝承を辿るツアー、神社仏閣を訪ね、仏様が暮らした中に生きている様をしっかりと見ていただけるような観光プランなどを取り入れていきたいと思っています。

大河内理事

…昨年も東京県人会の皆さんが、忍者ツアーをされています。**岩永市長**…外国人の方はリアルな体験を好まれますし、その価値を国内外にお伝えしていきたいと思っています。

大河内理事

…日本のアニメで人気があるのは忍者、そして京都もアニメに力を入れていきますので、京都と甲賀がアニメで繋がればと思います。

小林会長

…外国人は特に体験の観光が好まれますが、外国人の誘客には、海外にSNSで発信することが大事で、それがリピーター獲得に繋がっています。今、外国人観光客が急を増えています。例えば、城崎温泉では年間千人だったのが、5万人に急増していると聞きます。浴衣を着て100軒余りの旅館のお湯めぐりを体験するとか、和歌山では、熊野古道で山歩きをして、お寺めぐりを楽しんで、その体験を発信するという体験観光などが人気のようです。

岩永市長…中世の甲賀は特定の大名に支配

炭素を吸収してくれるようになりますし、伐採した木材も活用していきたいと思っています。

小林会長…甲賀市は森林が、60%〜70%ありますので、古い木を伐採して、電力会社に他の燃料と混焼してバイオマス発電に利用してもらおう。電力会社は大量のウッドチップを輸入して発電に利用しているので、大きな二酸化炭素削減には繋がらないが、やる事が大事だと思います。

岩永市長…植樹には最近花粉の少ない杉の木もありますし、獣害との関係もあり、植林によって山に返していく事も大事です。また、甲賀では西日本で初めてのネイチャーポジティブ宣言を目指しています。貴重な動植物があり、子ども森があり、企業の皆さんとパートナーを組み、その生態系を守っていく取組を国に認めていただいて、いろん



甲賀市産のヒノキのおもちゃ

されていなかったため、多数決で物事を決めていく文化があったりとか、現代から見ても学ぶことが多い地域だったと思います。

小林会長…甲賀は近江商人のルートだと思っています。忍者が焼き物や薬を持って他の地域に持って行き、何が無いかの情報をえて、地域に活躍したのが始まりではないかと思っています。

鉄道の町甲賀

草津線・信楽高原鐵道・近江鐵道

小林会長…甲賀市には14個の駅があるとお話しますが、JR草津線、信楽高原鐵道、それに近江鐵道の3つの鐵道があり、これらの有効活用や利用促進が必要ですがね。本日はこの後、横浜に戻りますが是非「近江鐵道」「JR草津線」を活用して戻ろうと考えています。

岩永市長…甲賀は14も駅がある鐵道のまち（他のまちは2〜3の駅）ですが、市民の皆様は、鐵道のまちとしての認識が無く、鐵道を利用した神社仏閣（忍者の聖地、油日神社、厄払いの聖地、田村神社等）を巡る観光の取組や、駅を中心としたにぎわい創出事業の支援など、積極的に進めていきたいと思っています。

田村神社の前に「道の駅あいの土山」がありますが、隅研吾氏の設計でリニューアル工事中で、令和7年春の完成を目指しています。かなりインパクトのある建物で、体験教室なども行える建物になります。



信楽高原鐵道・ラッピング電車

まちづくりにおける

今後の人口減少について

小林会長…今後の人口減少対策についてお伺いいたします。

岩永市長…人口減少は難しい問題で、平成20年度以降、転出超過が続いておりましたが、コロナ禍も落ちつき、ようやく昨年は転入超過になりました。今年度は空き家バンクの成約件数が県内一となり、空き家を活用した移住をまだまだ増やしていける地域ですので、便利な田舎をアピールして移住者を増やしていきたいと考えています。また、甲賀市には空き家が約1600あり、企業の皆様にも寮などで活用していただいています。

甲賀市は昼間人口が多く、市外から多くの方が仕事にきていただいています。そうした方に、甲賀市に住んでいただける移住政策を進めた結果、ようやく転入が増えてきたところです。事業所にとっても働く方が近くに住むと緊急対応にも有難いことだと思えます。また、コロナ禍でも甲賀の製造業は強かったですね。第3次産業より製造業は底硬く、税収にも大きく影響しませんでした。そのあたりの底硬いところを若い人達にPRして、給料や待遇など、製造業の良さと一緒に併せて、甲賀市に住み、甲賀市で働くことの魅力をしつかりアピールしていきたいと思えます。

小林会長…小学校が20以上あり、各地域に中学校、高校がありますが、高校卒業後に転出する人が多いのでは。

岩永市長…甲賀市は大学が無いこともあって、進学や就職を機に転出される傾向があります。このため、若い方のUI-Jターンや定住に向けて、今年度から「30歳のつどい」を開催します。20歳のつどいと同じように、30歳でこのまちに帰ってきていただき、地元と同級生や友達とのふれあいによって、田舎の良さを再認識していただく機会として、30歳のつどいを企画しました。

小林会長…北陸3県は教育が熱心で、かつては一戸建てを持つために関西の大学に入学した方が多かったのが、北陸新幹線が出来て、東京の大学に行く人が増えています。

企業を誘致したら、移住が増える。外国人の観光誘客、ゴルフも同じですが、ビジターを増やす。彦根で行なっている鳥人間コンテストも、外国人をもっと参加させて、世界にアピールする事が大事だと思います。

岩永市長…滋賀県は裕福な県で、観光以外の産業が発展していたこともあり、これまで観光についてPRが足りなかったのかと思います。今後はユーザー、フェイスブックなどのSNSを活用したPRがまだまだ必要かと思えます。

県人会の皆さんへのメッセージ

小林会長…最後になりましたが、全国の県人会の皆様にもメッセージをおねがいします。

岩永市長…まずは、年初に発生しました能

登半島地震におきまして、お亡くなりになった方々、そのご家族、ご親族、関係者の方々に対しまして、心よりお悔やみ申し上げますとともに、被災者の皆様にも心よりお見舞い申し上げます。本市においても、県や周辺自治体とも連携しながら被災自治体の支援にあたりておりますが、まだまだ不安な日々が続いており、被災地の一日も早い復旧・復興を祈念しております。

さて、アフターコロナにおいては、これまでの価値観やライフスタイルが変容するとともに、新しい生き方や、新しい家族の在り方など、より多様性が求められています。本市では、物資的な豊かさや経済的な豊かさだけではなく、「新しい豊かさ」を日常の暮らしにおいて感じられることを全ての施策の視点としています。多くの方に、「選ばれたまち」となるように、「甲賀流忍者」、「信楽焼」、「東海道」、新名神高速道路の3つのインターチェンジなどの資源を活かし、「オール甲賀」で市民の「新しい豊かさ」を追求していきますので、県人会の皆様におかれましても、ご支援いただけますようお願いいたします。

岩永裕貴（主なプロフィール）

昭和48年9月3日 甲賀市生まれ
アメリカウイチタ州立大学国際政治学科卒業
元農林水産大臣秘書官
元衆議院議員

平成28年10月甲賀市長に初当選。現在2期目。